

ニューズレター

No.92

2019年2月6日

目 次

	ページ
お知らせ・行事案内	
第18回 さがみ自然フォーラム	1
会務報告	
生物多様性保全委員会の活動	3
行事記録	
浅羽副知事との懇談会を行いました かながわエコ10フェスタ ブース出展 生物多様性ホットスポットを体感しよう !!	4
江の島の自然 あつぎこどもの森公園	5
他団体・機関情報	
神奈川県農林水産系研究機関研究成果発表会 第18回自然環境シンポジウム	6
神奈川県自然保護協会からのお知らせ	

神奈川県自然保護協会 行事案内

第18回 さがみ自然フォーラム

— 豊かな自然の保全・再生 —
「生態系の再生」

2019年2月7日(木)~11日(月・祝)

会場/アミューあつぎ 入場無料：講演や発表の要旨集冊子を差し上げます。

【展示会場】

- 5F あつぎアートギャラリー
【日時】全会期中
10:00 ~ 18:00
(2月11日は17:00まで)
- 企画展
「生態系の再生」
 - 小中学校の自然体験活動
 - 高校、大学の調査研究
 - 県内自然保護団体の活動
 - 自治体や企業の
生物多様性保全活動 など

【主催者挨拶】

- 5F ルーム502 & 503
【日時】2月9日(土)
13:00 ~ 13:30

【講演会】

- 5F ルーム502 & 503
【日時】2月9日(土)
13:30 ~ 15:00
- 講演
テーマ：「生態系の再生」
講師：日本獣医生命科学大学
教授 羽山 伸一 氏

【研究・活動発表】

- 5F ルーム502 & 503
【日時】2月10日(日)
13:00 ~ 16:15
- 高校の活動発表、
大学の研究発表
13:00 ~ 16:15
【日時】2月11日(月・祝)
 - 幼稚園、保育園、小中学校
市民団体などの活動発表

- 主催/ 厚木市・NPO 法人神奈川県自然保護協会 ● 実施主体 さがみ自然フォーラム運営委員会
- 後援/ 神奈川県 神奈川県教育委員会 厚木市教育委員会 国連生物多様性の10年日本委員会
(公財)日本自然保護協会 (公財)かながわトラストみどり財団 桂川・相模川流域協議会
丹沢大山自然再生委員会

第18回 さがみ自然フォーラム

第18回目を迎えた今回も、市民団体、小学校、高等学校、大学で自然を研究する学生、行政、企業などの展示が行われます。

サブテーマの「生態系の再生」については企画展示と、日本獣医生命科学大学教授で、丹沢大山自然再生委員会委員長の羽山伸一先生の講演があります。

また、発表が一過性にならないよう、参加各主体の紹介や展示内容、講演や口頭発表の要旨をまとめた冊子を配布します。



会場案内図

◎ 羽山先生講演要旨

「生態系の再生～失われた未来を取り戻すために～」

20世紀は人類史上最大の破壊の世紀でした。この21世紀も同じ轍を踏めば、私たちの生存基盤である生態系を健全に維持することはできなくなります。なんとにしても、新たな世紀を再生の世紀にしなければなりません。

今から12年前、神奈川県では丹沢大山自然再生委員会の前身となる丹沢大山総合調査団が、総合調査の成果をもとに、丹沢大山の自然再生を目指した「丹沢大山自然再生基本構想」と提言書を県知事へ手渡しました。

県は、この基本構想と提言書をもとにして、「丹沢大山自然再生計画」を策定し、現在、その第3期計画に基づく自然再生事業を行っているところです。

丹沢大山は、大正時代に発生した関東大震災以降、度重なる自然災害によって森林が荒廃し、ようやく太平洋戦争後に復旧が始まってからは自然再生への挑戦が続けられてきました。その中核エリアである国定公園は、関東最大規模

のまとまった特別保護地域を擁し、首都圏にあって多様な生物や原始的な景観を残す貴重な自然となりました。また、900万人にのぼる神奈川県民にとっては、重要な水源地域として、生活に欠かせない存在でもあります。

これまでの自然再生事業によって、ようやく喫緊の課題であったシカ対策の成果が目に見えてきました。しかし、一方で隣接する流域や国立公園などでもシカ問題は深刻化しつつあり、今後は広域で連携した自然再生事業が必要となります。また、こうした野生動物管理は永続的に取り組む必要があり、それを支える体制と財源確保が不可欠です。さらに、自然再生の取り組みは、不断の科学的な監視によって、順応的に軌道修正する必要があります。

本講演では、こうした丹沢での生態系の再生に向けた取り組みをお話するとともに、身近な里山やウェットランドの自然再生についても紹介したいと思います。

◎ 発表等のプログラム

2月9日

- 13:30 主催者挨拶 厚木市長 小林常良
神奈川県自然保護協会理事長 藤崎英輔
- 13:40 講演「生態系の再生～失われた未来を取り戻すために～」 羽山伸一氏 (日本獣医生命科学大教授)
- 15:00 質疑
- 15:10頃 閉会

2月10日 高校・大学生の発表。

- 13:00 光明学園相模原高校理科研究部
カワラノギクを守るために～保全地の改良～
日本大学 生物資源科学部くらしの生物学科 住まいと環境研究室
都市鳥の保全意識向上を目的とした普及啓発ツールの制作 ～スズメを対象種として～ 三鍋穂波
公園管理植物廃材を活用した染物アパレル製品の開発 椎名春菜
日本大学 生物資源科学部森林資源科学科 森林経営学研究室
森林立体視ソフト「もりったい」を用いた神奈川県真鶴半島のクロマツ林の変遷の分析 岩井望祿
- 14:00 東京農業大学 昆虫学研究室
あつぎこどもの森公園における果実食ケシキスイ相の調査 今福悠人
神奈川県厚木市におけるアリツカムシ亜科群集構造の季節消長について 樽 宗一朗
東京農業大学 野生動物学研究室 松林ゼミ
東丹沢ならびに足柄地域における野生動物の又夕場利用に関する研究 大川智也、佐野千尋、稲村優一
都市緑地におけるニホンアマガマの巣穴利用に関する研究 ～特に子育てについて～ 飯島瑛梨、長谷川紗羅、丸山花織
- 15:00 人工哺育タヌキの野生復帰に関する研究 宮本慧祐、高井亮甫／よこはま動物園ズーラシア 東野晃典
厚木市荻野地区に生息するニホンザルの採食生態に関する研究 山田恵佑
あつぎこどもの森公園におけるネズミ類の生息環境利用に関する研究 江原雄輝
あつぎこどもの森公園におけるシマヘビの生息環境利用に関する研究 桑田佳歩
- 16:00 あつぎこどもの森公園における腐肉食性の甲虫群集に関する研究 荒山 悠

2月11日 小学校、市民団体、企業の発表

- 13:00 学校法人内田学園七沢希望の丘初等学校
バードストライク対策について 自然環境保全委員会児童
学校の残さいを減らす活動 給食委員会児童

(株)フジタ 技術センター

オンライン GIS、在来種育成手法による複合的な保全対策 北島信行 島多義彦

14:00 特定非営利活動法人 野生動物救護の会

神奈川県自然環境保全センターの野外施設における野生動物の痕跡と生態の調査 小林夏子

一般社団法人日本オオカミ協会

丹沢大山にオオカミの復活を！ 神奈川県支部

神奈川トンボ調査・保全ネットワーク

神奈川県中央部の水田地帯におけるトンボ類のセンサス調査から見えたこと 諏訪部晶

15:00 終了予定

会務報告

生物多様性保全委員会の活動

外来生物リスト作成をめざしています

神奈川県自然保護協会では、2012年から生物多様性ホットスポットの選定委員会を立ち上げ、2015年8月に選定結果を発表しました。

その後、10月～2016年2月にかけて本協会50周年記念行事や選定委員をパネリストにしたシンポジウムを行い、また2018年2月発行の「かながわの自然」67号へ解説記事掲載等を通して広報普及活動をしてきました。

ホットスポットの選定に関してはそれで終わりということではなく自然や社会の条件の変化に伴い、定期的な見直しが必要であることは言うまでもありません。

当然次の見直しへの準備は考えているわけですが、県下の生物多様性の保全に当たっては、ホットスポット選定だけではなく、これを脅かす要因として昨今話題になる外来生物への対応も必要です。

そこで、従来のホットスポット選定委員会を本年度から「生物多様性保全委員会」とし当面、外来生物対応の指針作りを行うこととしました。

委員のメンバーと担当は次のとおりです。(50音順)

石井 隆：鳥類

勝山輝男：植物

岸 一弘：昆虫

勝呂尚之：陸域魚類・探水生物

天白牧夫：両生爬虫類

林 公義：海域魚類・海棲生物

村上雄秀：植生

山口喜盛：哺乳類

また、当面のスケジュールは、次のように考えています。

2019.1 外来生物リストの持ち寄り

2019.2~3 とりまとめ・外部等調整

2019.4 原稿のまとめ

以降 シンポジウムなど広報。普及活動

2015 生物多様性ホットスポット、パンフ作成
事後調査
改訂

【外来生物リスト記載項目概要】

・基準

ア. 分布の拡大状況→分布区域は川崎横浜・三浦・県央・湘南・県北・県西などとする

イ. 人体の健康への危険性（有毒など）（重み大）

ウ. 生態系や在来生物への影響（在来生物の駆逐、交雑など）（重み大）

エ. 景観や生活環境（鳴き声など）への影響

オ. 産業への被害・利用

☆外来種全種リストが作成可能な分類群は全種リストを作成する

・項目

1. 学名／和名（国内外来種を含む。国外と国内を特に区別しない）

2. ランク：

A：早急に防除が必要＋可能

B：防除の必要はある。ホットスポットや保全地域では防除

C：それ以外の一般外来種（防除不可能／不必要）

S：未侵入だが侵入すると危険性大

3. 分布（分布面積は基準に含まれない）

4. 生育／生息環境

5. 生態（生活史・競合種など）

6. 指定理由

7. その他（分類上の扱い・交雑状況など）

8. 防除方法

行事報告

浅羽副知事との懇談会を行いました

8月2日 浅羽副知事及び平田緑政部長、自然環境保全課幹部等の皆さんと本会役員により、恒例の懇談会を行いました。

本協会出席者 藤崎理事長 大谷副理事長 片桐副理事長 原田理事 山口理事 村上理事 宮島監事 青砥事務局長

話題概要 (○ 副知事始め県側発言 ▼当協会発言)

1 2020年オリ・パラを機会に、江の島の魅力をさらに高めましょう

▼ 女性センターや龍野が岡などのふるさと樹種による森づくり箇所や聖天島などの固有種の多い自然植生、文化財などの特性とオリ・パラとの調和が取れることが望ましい。

○ (副知事) 限られた平坦地の中でむずかしい面もある。

植生の重要性はわかっているので終わったとき女性センターなどの跡地利用をどうするか、藤沢市の計画でも自然環境は重視しているので、支援できる所はしたい。

2 生物多様性保全に向けて
外来種問題

▼ 県民向けの啓発活動のツールとしてパンフレットなど

一緒に作れないか。

○（副課長）県内で活動している団体はたくさんあり、それらの情報を集めることが大事。また今年から生物多様性啓発も含めてこれから始めようという団体などに専門家を派遣する事業を始める。講師として、また情報を必要としている団体を紹介するなどの協力をお願いしたい。

○（副知事）県民にボランティア活動をしてもらうとき外来種に対する知識などの問題がある。

▽ 観察会で知ってもらうことが有効、駆除の現場で何をしているか表示をして行う事で啓発になる。

○（副知事）活動時だけでなく常時ある掲示もいい。

鳥獣と希少種

▽ 箱根丹沢のシカと希少種について、箱根ではシカ対策が現在重要課題、丹沢では効果が少し見えてきた、次のステージとして希少種の保全対策をどう考える時期に来ている。

○（副知事）箱根ではシカの影響が顕在化している。丹沢とは地形的に条件がちがいやり方も同じようには行かない。舞台的な対策はまだだがそのような意識は持っている。箱根についてはやや光りがさしてきた感じがする。これからは復活した希少植物の保全や、何が大事か登山者などに啓発することが重要。今まではシカだったが今度は人間ということにならないように。

▽ ビジターセンターが縮小されていることが心配。

▽ 身近な緑について、鎌倉や湘南海岸の松林は良い状態に保全されている。

○（副知事）保全するためには管理が必要。関係市町とも連携して進めていきたい。

3 里地里山保全活動今後の展望

▽ 里山活動継続のための仕掛け、仕組み作りについて

里地里山の大事さについて共通の認識がある。これを次の世代に引き継いで行く上で今の里山団体に認定されている23団体がいいのか。都会や他県から関わりたいと思っている人を取り込んで継続できる仕組みが作れるのか、考えて欲しい。

○（副課長）アンケートの結果、高齢化や人手不足、資

金のことで継続的な活動が難しくなっている等の課題があるようだ、県だけではできないこともあるが、新しいことも含めて局内で検討している。

○（副知事）現在認定団体は23あるが、その他にも活動しているところは多くある。いろいろな団体との連携も必要と思う。里山の魅力を知り、ふれあいたい欲求があるのは都会の人だ。環境農政局全体で、観光と結びつけた振興策について考えていきたい。アイデアをお貸しいただければ幸い。

里地里山はどうやって守っていけばいいのか、実際には課題が多い。悩ましいところだ。

▽ 里山認定団体になるためには、土地所有者が半数など制約がある。大都市近郊では違う形で気持ちのある人を巻き込む形があっても良いのではないか。

▽ 担い手がどこにいるか考えてぜひ施策に生かしてほしい。

○（副知事）担い手不足は深刻な問題で、考えていかなければいけない、重い課題と受け止めている。

▽ 湘南地方では、里山的なところは市街地の真ん中にある私有地で、地価が高い。人に貸したらいつ返してもらるか分からない。また人に手入れをしてくれというのも、やりますよとも言いきない状況がある。

地域によって違う課題がある。

4 ごみの不法投棄や大規模な廃棄物置き場対策（要望）

○（副知事）ごみ対策というのは根本的な問題だと思っている。パトロールなどしているが相当量がまだある。すぐ答えは出ないが、努力するしかない。

以上で終了しました。

有益な意見交換ができました。お忙しい中お時間を取っていただいた、浅羽副知事、始め環境農政局平田緑政部長、自然環境保全課山田課長始め皆さまに感謝します。

かながわエコ10フェスタ ブース出展

＊ ＊ さとやま水族館 & 外来生物 ＊ ＊

2018年 5月26日（土） 5月27日（日） 横浜公園



ブースの様子 ザリガニが人気

両日とも晴天に恵まれ、横浜公園は多くの人でにぎわいました。当協会の展示では、毎年人気のアメリカザリガニ今年も子どもたちを集めました。

被害を及ぼす外来種であることはようやく浸透してきたようです。

オオキンケイギクが特定外来生物であることにびっくりした人も多く、成果がありました。

カエルやイモリなどの展示も、懐かしく思った人は多く自然のよさを訴えることができた2日間でした。



外来生物



里山水族館 水辺の生き物

生物多様性

ホットスポットを体感しよう !!

江の島の自然を訪ねました

2018年 6月 9日 (土)

コース 弁天橋—聖天島—東町通り—モース記念碑—青銅鳥居—岩本楼裏手—西浦海岸—市民の家—裏参道—御岩屋通り—龍野ヶ岡自然の森(昼食予定)—稚児ヶ淵—江の島岩屋—山ふたつ—亀ヶ岡広場—江の島神社(辺津宮)—弁天橋
※ コース途中で外来植物の除去作業をしました。



外来種 ノハカタラクサの除去



路傍のスカシユリ



崩落工事をした聖天島



海岸崖の植生

歩き始めると歩道の植え込みの下で花を咲かせているスカシユリが歓迎してくれました。聖天島では、できたばかりの落石対策ガードを見て工事に至るまでの、県との交渉やその後の説明を聴きました。植物中心の観察をしたり、裏参道で光の少ない常緑樹の林床に入り、広がるノハカタラクサ除去などしました。さすが観光地で人が多く、またとても暑い日だったので、解散した後のビールがとてもおいしく感じました。

ホットスポットを体感しよう !!

あつぎこどもの森公園を訪ねました

2018年 10月14日 (日)

あつぎこどもの森公園は、選定作業時はまだ公園にはなっており、選定地の名称は、荻野運動公園北側緑地としていました。昆虫、陸魚、哺乳類の生息状況から、カテゴリーAとされています。

- * カテゴリーA：希少種・レッドリスト集が集中して産する地域
- カテゴリーB：神奈川県や地域の生物多様性保全上、特に重要な地域



水辺の生き物調査隊学習参観



アカハライモリ



森の中の観察

この日は、水辺の生き物調査隊な外来生物学習と駆除活動が行われていました。始めに室内学習の場面で、参観と一緒に勉強させてもらい後から、活動の場面も見学させてもらいました。

その後、植物やトンボの観察、田んぼのふちの小流に生息するアカハライモリや魚類の観察など盛りだくさんの1日でした。

なおここでの見物は生き物だけではありません。



東京軽石層



始良-丹沢火山灰層



富士宝永スコリア

ここにおける3つの地史的な大事件を物語る地層がみられることです。

始良—丹沢火山灰層を作った始良(あいら)とは鹿児島県にある地名です。

(当日配布パンフレットより)

神奈川県農林水産系研究機関 研究成果発表会

平成31年2月9日(土) 13:30~16:00
(受付開始 13:00)

波止場会館5階多目的ホール
(横浜市中区海岸通 1-1)

■ 定員 108 名

神奈川県の農業、畜産、水産、林業の研究機関では、「地産地消の推進」や「食の安全・安心」に寄与する研究開発を進めています。

研究成果を皆様にご覧いただくため、研究員自らがわかりやすく発表します。

研究成果の展示・試食もありますので、ぜひご来場ください。(試食品は変更する場合があります。)

【問合せ先】

神奈川県農業技術センター

企画経営部 Tel 0463-58-0333 (代)

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f70030/>

自然環境保全センター

発表テーマ かながわの水源林の再生

—良質な水の安定的確保をめざして—

展示 発表テーマに関する展示

試飲 やまなみ五湖のブレンド水

水産技術センター

発表テーマ 川の魚を守る

—ギバチの間伐材魚礁の開発—

展示 魚の中骨抜き具

試食 かます棒

農業技術センター

発表テーマ かながわの農産物を測る

—その美味しさと機能性—

展示 スイートピー新品種等

試食 湘南ゴールド

畜産技術センター

発表テーマ おいしい豚肉の供給

—肉質と生産性を求めて—

展示 発表テーマに関する展示

試食 県産豚のソーセージ

第18回自然環境シンポジウム

生物多様性とは？

私たちのいのちと暮らしを支えている...

平成31年2月17日(日)

受付 12:00 開演 13:00 ~ 16:30

会場 神奈川県立生命の星・地球博物館

SEISA ミュージアムシアター 参加無料

共催 酒匂川水系の環境を考える会

神奈川県立生命の星・地球博物館

後援 小田原市 FM 小田原株式会社

公益財団法人 日本自然保護協会

話題提供

自然保護と環境教育

近藤正樹 近藤蟻蜘蛛研究所

両生類から見る豊かな水辺環境とは

天白牧夫 NPO 法人三浦半島生物多様性保全

淡水魚の保全と復元~川の生物多様性はなぜ必要か

勝呂尚之 神奈川県水産技術センター内水面試験場

昆虫類の多様性と生態系管理

岸 一弘 茅ヶ崎野外自然史博物館

神奈川県自然保護協会からのお知らせ

神奈川県自然保護協会活性化のために若い人の力を!! ご協力ください

2019年は役員改選の年です。現在の役員平均年齢は70歳を超えています。若返りが課題です。自薦、他薦を問いません。情報をお寄せ下さい。

ニューズレター 92号

特定非営利活動法人

神奈川県自然保護協会

<http://www.eco-kana.org>

郵便振替口座 00230-0-112653 銀行からの振り込みは ゆうちょ銀行(9900) 029 (せりけい)店 当座 0112653

2018年2月6日発行

〒243-0816 厚木市 林 5-15-10 青砥方

TEL&FAX 046-222-2356

Eメール: nacs-kana-office01@eco-kana.org